

# 茨城県の今と昔

日立第一高等学校附属中学校  
一年 小泉 ころろ  
矢野 楽

～人口の変化を調べてみた!～

## <調査方法>

図書館の資料をもとに、人口密度を求め、地図にまとめる。

人口密度の小数点以下は四捨五入し、市町村は比べやすくするため、現在と同じくざりで表す。また、合併前のものは、例)のように求める。  
例)旧市の合併前の人口密度 =  $\frac{\text{旧市Aの人口} + \text{旧市Bの人口}}{\text{旧市Aの面積} + \text{旧市Bの面積}}$

## <調査結果と考察>

### <県北地区>

この地区は、もともと人口が少なく、市町村が多く、昔と今でかなりの変化の地域が多かった。だが、変化のあった4市村のうち那珂市、東海村、ひたちなか市の3つは、どこも100人以上1km<sup>2</sup>あたりの人口が増えた。そして、この3市村は他と比べ県の中心に近い。これから、県の中心へ近づくほど人口密度が高くなると考えられる。

### <県西地区>

この地区は他と比べ、人口密度の変化が少ない。その中で増えた古河市、結城市の2市は平均して200人程人口密度が上がった。このことから特に県西に近いこの2市に、ここ40年で他県から人が集まってきたと考えられる。

### <県南地区>

この地区は特に人口が増えている市町村が多く、つくば市、三浦市、稲敷市は、元々人口が少なかったこともあり、特に変化率の高い3市となった。

### <県央地区>

この地区は「県の中心へ近づくほど人口密度が高くなる」という予想の通り、城里市を除いてほぼすべての市町の人口密度が増えている。城里市の人口密度が減った理由としては、県庁所在地である水戸に人が集まったからだと考えられる。

### <鹿行地区>

この地区は、県西地区と同じように県の外側の市の人口密度が増えていることから、ここも他県から人が集まってきたことが考えられる。

## <市町村名>

- ① 大子町
- ② 常陸大宮市
- ③ 高萩市
- ④ 北茨城市
- ⑤ 常陸大宮市
- ⑥ 日立市
- ⑦ 那珂市
- ⑧ 東海村
- ⑨ 水戸市
- ⑩ 城里市
- ⑪ 笠間市
- ⑫ 水戸市
- ⑬ 茨城町
- ⑭ 大洗町
- ⑮ 小美玉市
- ⑯ 古河市
- ⑰ 結城市
- ⑱ 筑西市
- ⑲ 桜川市
- ⑳ 五霞市
- ㉑ 境町
- ㉒ 坂東市
- ㉓ 八千代町
- ㉔ 下妻市
- ㉕ 常陸市
- ㉖ 石岡市
- ㉗ つくば市
- ㉘ 土浦市
- ㉙ 土浦市
- ㉚ 牛久市
- ㉛ 阿見市
- ㉜ 美浦村
- ㉝ 美浦村
- ㉞ 美浦村
- ㉟ 美浦村
- ㊱ 美浦村
- ㊲ 美浦村
- ㊳ 美浦村
- ㊴ 美浦村
- ㊵ 美浦村
- ㊶ 美浦村
- ㊷ 美浦村
- ㊸ 美浦村
- ㊹ 美浦村
- ㊺ 美浦村
- ㊻ 美浦村
- ㊼ 美浦村
- ㊽ 美浦村
- ㊾ 美浦村
- ㊿ 美浦村



- ### 人口密度 / km<sup>2</sup>
- 0~199
  - 200~299
  - 300~399
  - 400~499
  - 500~599
  - 600~699
  - 700~799
  - 800~899
  - 900~999
  - 1000~1099
  - 1100~1199
  - 1500以上

→ 40年後

## <人口密度の変化>

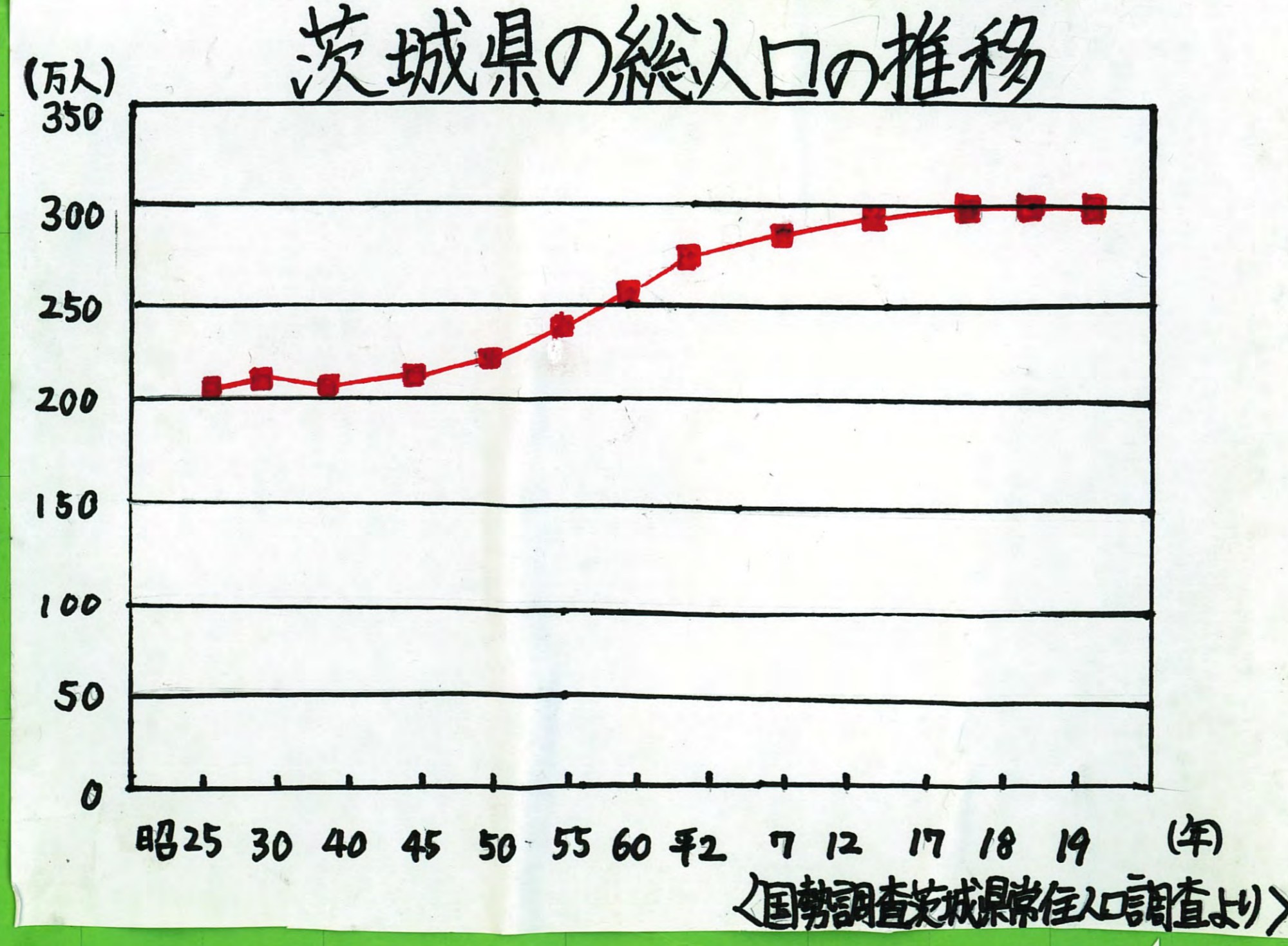
- ① 95→55
- ② 107→141
- ③ 160→153
- ④ 238→238
- ⑤ 145→122
- ⑥ 945→820
- ⑦ 423→555
- ⑧ 710→993
- ⑨ 1129→1558
- ⑩ 127→122
- ⑪ 292→319
- ⑫ 1022→1096
- ⑬ 253→271
- ⑭ 965→711
- ⑮ 273→352
- ⑯ 862→1141
- ⑰ 677→785
- ⑱ 510→509
- ⑲ 280→237
- ⑳ 370→380
- ㉑ 526→524
- ㉒ 425→440
- ㉓ 383→373
- ㉔ 461→535
- ㉕ 444→497
- ㉖ 330→353
- ㉗ 283→800
- ㉘ 890→1146
- ㉙ 379→269
- ㉚ 468→1431
- ㉛ 420→666
- ㉜ 116→238
- ㉝ 314→621
- ㉞ 409→1813
- ㉟ 1061→1524
- ㊱ 545→997
- ㊲ 189→208
- ㊳ 380→655
- ㊴ 263→207
- ㊵ 222→232
- ㊶ 119→157
- ㊷ 464→640
- ㊸ 359→408
- ㊹ 421→645



人口密度の変化が大きい市町村TOP3

① <守谷市>  
40年の間に人口が大幅に増加している。理由としては、つくばエクスプレスの開業により、都心へ移動しやすくなったからだと考えられる。

② <牛久市>  
ひたち野うしく駅周辺の新市街地に若い世代の転入が続いていることが要因の一つである。



最近はおおし数の変化が見られないが、昭和45年から平成8年あたりまでは、他の年に比べて変化が大きく、人口が増えている。

### <県庁所在地：水戸>

1975年頃に15~64歳ぐらいの年齢の人口が増加し、さらにその子供世代の人口が増加しているため、人口密度が増加した。それは、県庁所在地である水戸に人が集まるようになったからだと考えられる。

### <住んでいる市：日立>

日立市の人口密度は減っている。その理由としては、日立製作所の衰退などが考えられている。現在は県北地域の活性化へつなげるため、パンダの誘致を行っている。

### <つくば市>

子育て世代がつくばエクスプレス近辺に転入を続けていることや外国人の転入が活性化していることが要因だと考えられる。

### 参考文献

- ・茨城県市町村概況〔昭和53年度版〕
- ・茨城県市町村概況〔平成30年度版〕